

---

# 電腦遊戲

ユユキ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

電腦遊戲

### 【著者名】

ココキ

N8838N

### 【あらすじ】

ツイッター、ブログには疎いので、代わりに宣伝してくれると幸いです。

かなりの長編になる予定。長い目で見てください。

## プロローグ（上）

設定は近未来。この世界は魔法少女に支配されている。と、言つたらラブコメを彷彿とさせるが、むしろ逆だ。ラブもコメティもない。陰か陽で言えば、陰。シリアスな世界だ。少なくとも人が死ねるくらいには。

霞「探偵さーん」

年甲斐もなくかわいらしく、聞き慣れた声が扉越しに響く。ここは俺（優）の探偵事務所（木造）だ。

と、言つても事件などを取り扱つたことはない。どちらかといふと何でも屋だ。

霞「優ちゃん」

霞、三十代の女性。ちなみに俺は二十歳。どつちにとつても痛いので、嫌々ドアを開けることにした。ちなみに俺はツンデレではない。

優「頑張り過ぎだろ、おばあちゃん」

霞「熟女萌えつていいよね」

優「少なくとも、俺は遠慮する」

とりあえず、いつもの定位位置に座る。ちなみに霞とは何の過去もない。

出会つて随分経つが会話しかしていない。一応、依頼主のはずなんだが。

霞「今日は初依頼よ」

優「さつそく、地の文に反したな

霞「私はそういう女よ

ここは軽く流すことにする。

優「よし、本題に入るか」

霞「釣れないのね。まあ、いいわ。桜

扉が再び開き、俺と同じ年くらいの女性が入ってきた。

優「いたなら一緒に入ればよかつたんじゃないかな?」

桜「なんか恥ずかしいだろ」

霞「人見知りなのよ」

優「初対面だけど、絶対違うと思つ」

桜はそのまま霞の隣の席に着く。

桜「人見知り萌え失敗だな」

霞「さすがに無理があつたわね、キャラ的に」

優「マジ、本題入ろう」

桜「弁天倒すぞ、弁天」

弁天、初代魔法少女。もちろん女性。ちなみにそういうイレギュラーは今のところない。魔法少女はみんな女性だ。電腦技術、魔法の開発者とも言われている。この情報は探偵として微妙と判断するが。

優「そこでなぜ俺なんだ?」

霞「あら、鈍いわね。魔法は言葉の力。読解力。探偵にぴったりじゃない」

優「人殺しはぴったりじゃないけどな」

霞「優しいのね」

桜「優だけにだな」

ここは流すことにしよう。

優「ちなみに目的は?」

桜「このままだとパー太郎ということに気付いてな」

霞「それはいいことね。よくやつたわ」

優「いや、知らねえよ」

霞「あら、他人事じゃないでしょ。この辺りではお人好しで好かれているみたいだけど」

優「まあ、正直痛いところだな」

桜「で、パー仲間を誘いに来たわけだ。世界に干渉出来ないのは寂しいだろ?」

優「確かに暇だな」

霞「もう行くしかないっしょ」

優「人殺しにか？」

桜「楽しいぞ、世界に触れるのは。やうやうだな、おまえが付いて  
来れば、止められるかもしれないだろ？」

霞「それを言われたら行くしかないよね」

優「そうだな」

霞「さすがお人好し」

優「褒め言葉にしておくよ」

霞「あら、褒めてるのよ」

優「それはどうも」

桜「じゃ、行くか」

その時、天井の扉が開き梯子が下りてきた。いわゆる天井裏といつ  
やつだ。

エンデ「やつたるばい」

天井裏に潜んでいたのは見た目十一歳程の少女。そう潜んでいた。  
住まわした覚えはない。

ちなみに付き合いは霞より少し長い。

霞「出たわね妹」

桜「そう言えば似ているな」

優「分な。そういうことでおまえの母はおやぢへ腐つている」

桜「マジで、眼科行くか」

エンデ「男のツンデレは見苦しいで、兄ちゃん」

優「おい、ダンビュだ」

天井裏からさらに見た目二十代くらいの男性が降りてくる。見た目  
は若いが実年齢はそれ以上だろう。

なんたつて、エンデのおじいちゃんだからな。その年上を呼び捨て  
にするのは、友達ということ。

親しき仲に礼儀はいらない。と、少なくとも俺は思う。それじゃ寂  
しいからな。

ダン「おう、ここだ」

優「おまえもそこかよ。画的にシユールだな」

ダン「正直、泣きそうだよ」

エンデ「冗談きついわ、じいちゃん」

ダン「冗談だとよかつたんだがな」

エンデ「なんでやねん」

ダン「そららしい。もう妹にしてくれると俺もありがたいよ」

霞「その心配はもうないわ。このメンバーで住むことになるから」

優「それこそ、なんでやねん、だな」

ちなみに住宅区画はなくワンフロアだ。広さはまあ、十分だが。

霞「いいでしょ?」

優「まあ、いいけど」

ダン「相変わらず、霞には弱いみたいだな」

優「嫌な、おばあちゃんだよ」

ダン「腐れ縁だな」

優「おまえらもな」

エンデ「これで正式に妹やな、兄ちゃん」

優「もうそれでいいよ」

桜「妹萌えか。王道だな」

優「もうそれでいいよ」

エンデ「よーし、話戻して、やつたるばい」

優「おまえとダンは留守番な」

エンデ「妹に待つってほしこりやつやな」

優「もうそれでいいよ」

と、いうことで俺と霞、桜は弁天の元に行くことになつた。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8838z/>

---

電腦遊戲

2011年12月27日21時55分発行